

参 考 図 書 紹 介

ミツバチの文化史

渡辺 孝：ミツバチの文化史。筑摩書房。pp. 254+7. 1994. 2,200 円。ISBN4-480-85666-8

欲しいと思っていた書物である。有史以前のミツバチの存在、先史時代、エジプト、ギリシャ、ローマの文化の中でミツバチがどのような位置を占めていたかなどについて、典拠を示し、また著者自身の渉獵の経験を生かしてまとめられている。クレーン博士の「ミツバチ考古学」という大著には歴史の中のミツバチが詳細に描かれているが、微細にこだわってかえってピンと来ないと不満を感じていたところだった。またある時、アリストテレスのミツバチ観察に関する著者の記事を読んだことがあって、原典である「動物誌」(訳文)の読みにくさをかみ砕いてくれた筆力を感じ入った覚えもあったので、本書の内容、読みやすさが嬉しいのである(文芸書まで出されている著者の筆力を云々

するのは言い過ぎであるが)。

いくつかのテーマを民俗学的に取り上げて著者の解釈を提示していることについて、控えめなまえがきがついているが、幅広い教養に裏付けられた自分の目での論旨は説得力がある。自分の目という点では、ローマの噴水についているミツバチの発見の項では、同じところを歩いたのに何も感じなかった自分を恥ずかしく思った次第である。

若いころにギリシャのとりこになったという著者の思い出がみごとに開花し、読後の爽快感からも素直に発刊のお祝いが言える本である。ただし、「肩の荷をおろしたような気分」でおられる著者には申し訳ないが、以前に別の書(『ミツバチと人間』『ミツバチの歩んだ道』)などで、一部を扱われた中世以後の文化史についての続編を期待してしまう。(松香光夫)

ガン治療や難治性疾患に有効な医薬となるか

松野哲也：プロポリス—その薬効を探る。リヨン社。pp. 205. 1994. 1,200 円。ISBN4-576-94017-1

最近のプロポリスのブームに火をつけた松野哲也博士の著書である。博士はガン細胞の研究をしており、子宮頸ガンや肝ガンなどのガン細胞にプロポリスのミセル化抽出物を実際に使用して培養すると、ガン細胞の増殖を抑制し、死滅したことを報告した。この本は、その後の博士のプロポリスに含まれているガン細胞を殺す作用をもった成分の研究やその薬効についての作用と実際に医療の場で使われた臨床症例報告をまじえて生化学的に薬効を図解・表・写真などの研究データを示して説明してある専門的ともいえる書物である。

内容はタイトルにもあるようにプロポリスの薬効を探るということで、第一章ではプロポリスの作用としてガン治療の免疫系に及ぼす抗ガン剤や免疫賦活剤の作用・身体を活性化する働

き・白血球や血小板を増加させる作用・発ガンを抑制する作用・プロポリスに含まれているフラボノイドの抗酸化作用・実験動物の消炎、鎮痛作用などの抗炎症作用・難治性の皮膚病にも効果的・抗菌作用などについて、第二章では安全性試験成績を示しプロポリスの安全性について、第三章ではプロポリス症例として、各種のガン治療における補助的役割について、抗ガン剤の副作用の軽減、細胞性免疫能の賦活化、悪性細胞消滅・骨髄機能の改善効果や体調が良好になるなどの症例を扱い、第四章はプロポリスの抗ガン物質としてガン細胞に損傷を与える成分フラノイド、第五章プロポリスの入手の仕方、飲用量、産地による品質の差、ミセル化抽出物とは、アルコール抽出物の有効性、どの程度ガンに有効なのかなどのQ&Aについて述べられている。(江沢 真)